６月２５日（火）第２校時　　１年１組　道徳　「ひつじかいのこども」

ねらい

うそをつくと、人に迷惑を掛けたり信じてもらえなくなったりすることを理解し、うそをつかないで正直にしようとする心情を育てる。

身に付けさせたいこと

・うそをつくことはよくないことであることを理解する。
・正直に生活していこうとする意欲をもつ。

表れてほしい児童の意識（姿）

〇うそをつくと、みんなからしんじてもらえなくなるな。
〇うそをつくと、ひとにめいわくをかけるからよくないな。
〇うそをつかないで、しょうじきにしなくてはいけないな。

授業の流れ

学習課題を把握する　8分

1　うそをついてしまったことがあるか、自分の経験を振り返る。
・児童から経験が出ない場合は、教師から「こんなことはなかったか。」と問いかける。
・本時のめあてを確認する。

2　題材の範読を聞く。

☆うそをついた経験を振り返ることにより、本時のめあてを考える。

☆教科書は使わず、それぞれの場面について集中して考えられるようにする。

資料の内容を把握する　15分

3　１回目の「おおかみだ。」が、うそだと分かった時の大人たちの気持ちを考える。
・教師が羊飼いの子ども、児童が大人たちの役割演技を行う。
羊飼い「うそだよ。ちょっとふざけてみただけだよ。」

4　再びだまされた時の大人たちの気持ちを考える。
・１回目と同様に役割演技を行う。
羊飼い「おおかみなんか、来るものか。あはは、みんなまただまされたね。」

☆児童が大人たちの役割演技を行うことにより、大人たちの立場に立って気持ちを考えやすいようにする。
・はじめは、羊飼いや羊を守るために、大人たちが本当に心配して助けに言ったことを押さえておくことで、それがうそだと分かった時の気持ちをとらえやすくする。

価値に深く関わる内容について話し合う　12分

5　本当におおかみがやってきて、羊飼いの子どもが叫んだ時の大人たちの気持ちを考える。
・教師が羊飼いの子どもの役割演技を行う。
羊飼い「大変だ。おおかみだ。助けて。今度は本当におおかみが来たよ。」

☆羊飼いの子どもが何度もうそをついて大人たちをだましてきたことを押さえることにより、いつもうそばかりついている人の言うことはまたうそだと思われ、信用されなくなることに気付けるようにする。
・「それでも心配だから助けに行く。様子を見に行く。」という考えが出た場合は、それも認める。

学習をまとめ、自己の生き方を考える　10分

6　うそをつくとどうなるかについて考え、まとめる。

7　本時の学習で考えたことを発表する。
〇今日の学習をして思ったことや、自分はこうしていきたいと考えたことなどを発表してください。

☆資料の内容を振り返り、めあての問いに対するまとめを行う。

☆うそをつくと、人に迷惑を掛けたり人から信じてもらえなくなったりすることから、うそをついたりごまかしをしたりすることなく正直に生活しようとする意欲をもてるようにする。